

育成を目指す資質・能力

国語	地歴公民	数学	理科	保健体育	芸術	家庭	英語	情報
日本語を通して、他者の考えを理解することができる	意見や価値観の異なる立場を調整するためのアプローチをとることができる。	基礎的な原理原則をしっかりと身に着け、分かった事実を根拠にして論理的に思考を組み立てていくことができる	身の回りの様々な事象について、なぜそうなるのか、自然科学に基づいて論理的に説明できる	自己の可能性を限定せず、あきらめず取り組むことができる。	自己の意図や思いを大切に表現しようとしている（美術・工芸、音楽）	自立にむけた学びを実践につなげることができる。	英語で表現されている内容の主張を的確に把握（要約）しようすることができる	社会の様々な事柄に疑問を持ち、自分の興味・関心に応じた「問い」をつくることができる
読み取ったことや事実に基づいて、論理的に思考を組み立てることができる	他の地域と比較しながら、世界の中での日本の歩みを理解したうえで、自己を成長させる方向を展望できる。	自分の考え方や問題の解き方を、他の人にも分かるように記述または説明することができる	難しい課題を投げ出さずに取り組み、積極的に解決しようとする	自己の責任を全うし、仲間と協力し調和を図りながら、さまざまな取り組みを実践することができる。	造形の要素や働きを理解し、作品制作や鑑賞をすることができる（美術・工芸） 曲想や音楽の構造を理解し、演奏や創作、鑑賞をすることができる（音楽）	様々な価値観があることを理解し、自分と他者の違いを認めることができる。	自分の意見を、その理由や具体例とともに、多角的・批判的・論理的に英語で表現することができる	作品制作やプログラミングなど難しい課題に対して、試行錯誤して最後までやり遂げることができる
人が読んで理解できるように、正確かつ判りやすい日本語で記述することができる	現代社会の諸課題を自分ごととしてとらえて整理・分析し、解決を図るための行動を起こすことができる。	様々な問題に試行錯誤しながら粘り強く取り組むことができる	日々の授業の自主的復習を確実に実行できる	指導者や他者の助言を素直に聞き、運動を実践し、それに対して自分の意見も言うことができる。	用具や技法の特性を生かして作品制作している（美術・工芸） 演奏や創作の技能を身に付け、表現に生かしている（音楽）	自分・他者の両者の意見を大切にしながら共同作業に取り組み、よりよいものを作ろうとすることができる。	自己の言語運用能力を超える課題に対しても、試行錯誤しながら繰り返し取り組むことができる	グループ活動の際に責任をもって自分の役割を果たしている
課題に対して、多面的な角度から考えることができる	錯綜する情報を吟味して自分なりの分析や判断を行い、それを他者に論理的に説明できる。	身の回りにある課題を数学的に考えることができる	社会や身の回りに目を向け、解決すべき課題を自然科学的観点から見出すために努力できる	自己の健康に関心を持ち、それを実践することができる。	表現活動（制作や演奏）や鑑賞を通じて他者の個性や考えを理解することができる（美術・工芸、音楽）	グラフやデータを読み取り、今の家庭や社会の背景と結びつけて考えることができる。	課題の解決に向けて、批判的・客観的・多角的に情報を認識することができる	適切なメディアを選択し、自分の考えを発信することができる
他者との違いを超えて、議論・検討して課題に取り組むことができる	現代社会の諸課題の構造を、地理的な要因や歴史的な経緯を踏まえたさまざまな観点から考察できる。	目標に到達するための計画を立てたり、結果を振り返り計画を改善したりできる	自身の疑問に関して仮説を立て、あらゆる視点から吟味することができる	自己を客観的に評価し、それをもとに問題解決を図ることができる。	作品から読み取ったことを論理的に思考を組み立てて鑑賞することができる（美術・工芸、音楽）	自分の家庭や周りの状況が、社会とつながっていることを実感し、社会を変えるために自分たちの行動をどう捉えるかを考えることができる。	課題解決という共通の目標達成のために、積極的に他者とのコミュニケーションをとろうとすることができる	探究活動において、様々な情報を比較・検討し、結論（主張）を述べることができる
図書館やインターネットを活用して、様々な文献にアプローチすることができる	さまざまな情報を空間的に理解し、地図を用いて表現できる。				様々な情報媒体を活用し、技術の向上や自分の意見を相手に伝えることができる。		生活を豊かにするための技術向上への取り組みやワークに、自分の価値観に固守せず積極的にチャレンジできる。	
	先人の思想や宗教的価値観を手がかりに、自己の選択・判断の基準を客観的に見つめることができる。				実技で求められるフェアな行動を通して、相手や仲間を尊重することができる。		英語でのやりとりを通して、意見や立場・文化の違いを共感的に認識しようとすることができる	
	歴史的事実を自分ごととしてとらえ、歴史を形成する主体として自分を認識できる。				実技に主体的に取り組み、ルールやマナーを大切にすることができる。		ICT機器を一助として、言語活動を効果的に行おうとすることができる	
					共感力や想像力を働かせ、自分の目線にとどまらず、相手の立場や全体を見る視点に立つことができる。		自己を成長させる目標を適切に設定し、知識技能や実践的言語運用能力を主体的・段階的に身につけるための計画を立てることができる	
					自分で感じ、自分で考え、自分で行動する力と意思表示をすることができる。			